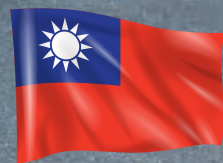




大崎町と台湾の交流



5月29日(月)から6月18日(日)の期間で、台湾陸上競技協会の代表チームが、大崎町で合宿をおこないました。選手は期間中、ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅でトレーニングや、中沖小学校で児童との交流などをおこないました。

5/29 歓迎セレモニー…激励品として町特産品のマンゴーとうなぎを贈呈



6/9 歓迎レセプション
若柳流かたばみ会による日本舞踊の披露



事前調整を大崎で

2回目

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」で台湾のホストタウンに登録されていた大崎町。令和元年9月、台湾陸上競技協会の代表候補チーム20名が来町し、15日間におよぶ初の合宿がジャパンアスリートトレーニングセンター大隅でおこなわれました。

その後の事前合宿受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により断念しましたが、昨年12月に、ホストタウンで培った友好関係を継続し陸上合宿を軸に、より一層の関係性の構築を図るため、相互協力に関する覚書を締結し、今回4年ぶりに合宿が実現しました。

今回の合宿は、7月に開催されるアジア陸上競技選手権大会(タイ・バンコク)と、9月・10月に開催されるアジア競技大会(中国・杭州)に向けたチーム力強化を目的に、棒高跳、十種競技、七種競技、砲丸投、ハンマー投、400m、400mHの選手とコーチ、計21名が来町しました。

集中できる練習環境

選手は、陸上競技場(屋外)や室内競技場、投てき練習場、トレーニングルームを利用して、技術練習や筋力トレーニングなど大会に向けて調整をしていました。練習環境について「大崎町は空気がとても良い。自然豊かでリラックスできる。市街地だと雑音があるが、ここは静かで練習に集中できる。室内競技場があるだけでなく、投てき練習場にも屋根がついていて、雨が降っても練習ができる」と、町の環境や施設で充実したトレーニングができていたことがうかがえました。